

壮春力歩

会長 鈴木 末一

先達に想い馳せつつ200号

会報誌「ネイチャーなら」200号の発刊を迎え、会員の皆さま方と共に心からお喜び申し上げます。そして、編集に中心的に携わっていただいた歴代編集長のご労苦に敬意を表します。

本会は2001年9月24日に呱呱の声をあげ、以来17年目を迎えています。奇しくも設立総会開催月に200号の記念号を皆さま方にお届けすることができますのも、感慨無量の心境でございます。

2年前に「創立十五周年記念誌」の編纂に携わり、創刊号から誌面を通読しました。先達の皆さま方の筆舌に尽くしがたいご労苦、会員の皆さま方お一人お一人の会の活動への情熱、各種活動の変遷、いこま棚田や忍辱山国有林間伐などの取り組み、そして、待望久しかった本格的な活動拠点となった「ならやま里山林」での景観形成整備活動の推移など、さらには随筆、文芸、広報記事とジャンルも広がり多彩なものとなっています。A4版1枚でのスタートとはいえ、その一粒の種が芽を出し、大きく生長してきたのです。今やA3版4~5枚(16~20ページ)と厚みも増し、ページを彩るジャンルも広がり、会員間のコミュニケーションの一助として、また、地域社会への情報発信媒体としても根を下ろしています。

100号発刊の時、初代会長の川井さんが、「それは一本の電話から始まった」と題して、会の誕生秘話を寄稿されています。創立十五周年記念誌にも「無から有への生みの苦しみ」なるものを語っておられますので、是非とも再度ご一読いただければと思います。

次に、会のロゴマークと会旗の事です。2003年5月11日国際奈良学セミナーハウスにて開催されました第2回通常総会において決定されました。デザインされましたのは、寺田正博さんです。森林インストラクターの有資格者であり、初期の活動におきましては、豊富な知識と技量を遺

憾なく発揮され、機関車(リーダー)としてご尽力いただいた方で、会への思いの丈を込めた作品となっています。

Nature Nara の頭文字NとNを半円形にデザインし、中央にはいつも若々しく、初心忘れず育つようにとの気持ちを込めた若葉のイラストを配されています。



会旗の色については、「青丹吉(あをによし) 寧楽乃京師者(ならのみやこは) 咲花乃(さくはなの)・・・」と万葉集にあります

奈良の枕詞「あをによし」より「あを(緑、古名:青丹色)」に、ネイチャーならと奈良・人と自然の会の文字色は、「丹色(丹はやや黄味がかかった赤色、赤色には真心の意もあります)」にされました。なお、色名については諸説あるようですが、色辞典の資料により総合的に判断されたということです。このように一色一色に、「私たちは大和の自然を愛します」の精神が込められています。

会員の皆さま、節目に当たりまして、創作されました想いを共有し、次世代へと受け継いでいかなければなりません。よろしく願いいたします。

会報誌は、活動に共感、協力を得るために大切なツールであります。例えば、読み手の方々にとって知りたい情報が掲載されていることなど、読んでもらえることが大切です。タイトルや記事の切り口を工夫することなどがポイントとなるかと思えます。編集チームの皆さんには、叡智を絞ってご尽力いただいています。時に応じて新企画も盛り込んでいただきました。

創刊以来今日まで、ご寄稿いただきました多くの会員の皆さま、そして、編集印刷から発送まで携わっていただけてきました編集チームの皆さま、第200号の会報誌を無事に発行することができました。ご協力とご支援に深く感謝いたします。会員の皆さま、より良い誌面づくりに、さらなるご協力を重ねてお願いいたします。